

議 事 録（要点筆記）

日 時	令和8年5月15日（金） 午後3時30分から午後4時30分
場 所	みらいく多目的室3
会議件名	第1回日野市学校水泳授業等の在り方検討委員会
参加者	（委員）：豊岡委員長、船山委員、伴委員、但野委員、阿部委員、東委員、中田委員 （事務局）：前田統括指導主事、高橋教育施策担当課長、黒谷指導主事、河住指導係長、小松指導係主任
次 第	1. 検討委員会委員紹介 2. 教育委員会あいさつ 3. 日野市学校水泳授業等在り方検討委員会委員長選出及びあいさつ 4. 日野市学校水泳授業等在り方検討について 5. 意見交換 6. 事務連絡
配布資料	【資料1】学校水泳授業等の在り方検討委員会委員名簿 【資料2】日野市学校水泳授業等在り方検討委員会設置要綱 【資料3】第1回学校水泳授業等の在り方検討委員会 【資料3ー2】「命を守る水泳指導」（案）
主な内容	1. 検討委員会委員紹介（事務局） ※「【資料1】学校水泳授業等の在り方検討委員会委員名簿」参照 事務局より委員紹介 2. 教育委員会あいさつ 教育部統括指導主事あいさつ 3. 日野市学校水泳授業等在り方検討委員会委員長選出及びあいさつ ※「【資料2】日野市学校水泳授業等在り方検討委員会設置要綱」参照 （1）日野市学校水泳授業等在り方検討委員会設置要綱第5条1項の規定に基づき、委員長は豊岡弘敏委員に決定した。 （2）日野市学校水泳授業等在り方検討委員会設置要綱第5条3項の規定に基づき、委員長から中田秀幸委員が指定された。 （3）委員長より就任のあいさつ ・水泳授業は泳力を高めるだけでなく、子供たちが自らの命を守る力を身につける・育む大変重要な教育活動であるとする。 ・施設管理や安全面、教員の負担など、学校現場には様々な課題がある。 ・子供たちの水泳機会をどのように確保していくかという視点が大切で、全国の自治体でも検討が進む中、子供たちにとって安全で持続可能な水泳教育の在り方について、日野市が進む

べき道を皆様と前向きに議論したい。

4. 日野市学校水泳授業等在り方検討について

※「【資料3】第1回学校水泳授業等の在り方検討委員会」参照

(事務局説明)

- ・委員会の目的は、日野市における将来を見据えた水泳授業等の今後の在り方を検討する。令和8年度から開始し、令和10年度にある一定の方向性を示したい。
- ・学習指導要領における水泳授業の学習の位置付けについては、小学校1年から中学校2年までは必修（水遊び・水泳運動・水泳）、中学校3年は選択制。ただし「適切な水泳場の確保が困難な場合」は実技を取り扱わないことができるが、事故防止に関する心得は必ず取り上げることとされている。現在これをもとに各学校で水泳の授業を実施しているところである。また、文部科学省から出されている水泳の手引きをもとに各学校では年間10時間程度水泳授業を実施しているというのが、多くの学校の実情というところである。
- ・現状及び課題について、天候不良、水質不適合のほか、特に近年は猛暑（暑さ指数：WBGT 31度以上）により授業時数を下回る学校が発生している。
- ・教員の負担（毎日の水質管理、命に関わる安全指導の人員配置など）や、各校プールの老朽化が大きな課題である。
- ・一方で、民間プールを活用している小学校（令和6年度は6校）では予定通りに実施できているが、市内の民間プール施設数や移動時間に限りがある。
- ・令和8年2月12日にスポーツ庁の方から「持続可能な水泳授業の実施に向けた参考資料について」示され、その中に、水泳における教育的効果や教師の負担軽減の観点、財政面等から多角的な検討を要するとあり、持続可能な水泳授業に向けて、様々な視点から検討できればと考えている。
- ・他地区の状況ということでは、T市は小学校6年で25m完泳を目指す、中学校での実技は廃止し安全指導の充実を図る。S市は中学校のプール使用を停止し実技は行わず、事故防止に関する授業は引き続き実施。E市は全小中学校のプールを廃止。市内の民間・公共温水プールで実技を実施し、子供たちの機会補償のために無料利用券を配布。
- ・日野市の今後の授業等について、『命を守る水泳授業』を提案する。学習内容は、自他の命を水難事故から守ることを目的に、事故防止の心得と応急手当を関連させた学習を中心に実施する。
- ・実施内容については、教室での学習とプールを使用した学習を実施し、水泳の事故防止に関する心得を必ず取り上げる。小学校はバスで民間プールへ移動し、各学年年1回（計90分）の実技（6年は着衣泳）を実施。中学校は原則実技なしとし、任意の学年で心肺蘇生やAED取扱いの実技を実施。
- ・今後のスケジュールについては、パイロット校での実施（令和9年度～）や、児童・生徒・保護者へのアンケート調査を経て、令和10年度に方向性を示す。

- ・検討委員会は年３回の開催を予定している。

【委員意見交換】

(委員長)

- ・事務局の説明は「結論ありき」という印象を持つかもしれないが、市教委として早急にまとめるべき喫緊の課題であるためこのスケジュールを提案した。

- ・まず、各委員が小中学生時代に受けてきた水泳授業の思い出について伺いたい。

(委員) 水泳は苦手だったが、今ほど 30 度を超えるような暑い日はなかった。泳げるようになりたい気持ちもあり、親に応援されて夏休みのプールにも通っていた。

(委員) 北海道（札幌）で過ごしたため、中学校にはプールがなかった。小学校は屋外プールがあったが、寒さで中止になることが多く年３～４回程度の実施だった。学校でできるようになったことを、親に温水プールに連れて行ってもらって泳いでいた。

(委員長) 校長先生方の中で体育の教員経験がある方に伺いたい。当時の体育授業での子供たちの様子や保護者の声はどうだったか。

(委員) 学年に応じたねらいを持って指導していた。低学年は水遊びで水に慣れ親しみ、中学年で浮けるようになり、高学年で泳法を学ぶというように、段階的に実施していた。

(委員長) 現在、夏休みの水泳教室は実施しているか。

(委員) 小学校では現在は実施していない。

(委員) 日野三中はプールに事情があり実施していない。

(委員) 七生中は以前は実施していたが、昨年あたりから中止となった。

(委員長) 日野市における自校や小学校の体育授業の実態、および事務局から提案のあった授業についてどう考えるか伺いたい。

(委員)

- ・実態と課題として、プール老朽化に伴う水質管理が非常に難しい。また、現在は暑さ指数(WBGT)との戦いであり、計画通りに実施できず、急な中止による他教科への調整影響も大きい。現状を何とかしなければならないのは事実である。

- ・私たちが推進しているのは安全・命の教育だが、同時に「生涯スポーツ・ウェルビーイング」との関わりも大切である。水泳は年齢を重ねても親しめるスポーツであり、その可能性を残しておきたい。

- ・学校プールの意義を絞り込むなら最後は「命の教育」になるが、次は、自分の生活の中にスポーツを取り入れて自分の生活を自分の力でより良くしていく、その姿を養うことだと思っている。その中に水泳を含んでおきたいと考えたときに、事務局の提案（小学校年１回、中学校実技なし）では水泳の楽しさを味わうには不十分に感じる。６年生の着衣泳のみ、低学年の水遊び１回（実質１時間程度）では、水に浮く楽しさや水中の身体操作の喜びを味わうには少なすぎる。改善は必要だが、もう少し子供たちにとっての活動機会を保障できるアイデアがほしい。

(委員長) 設備面における自校の現状や、中学校全体のプールの状況を踏まえて意見をいただきたい。

(委員) 日野第三中学校の事例では、自校プールが使えないため近隣の小学校プールを借用している。事前調整を密にしているが、天候等の影響で当日中止になると他校に出向いているため非常に混乱し、授業の組み立てが厳しい。お互いの関係は良好だが、他校に負担をかけていることが教員側のストレスになっている。現在カレンダー上は各学年2回程度の実施となり非常に回数が少ない。

(委員)

- ・プール維持には非常にお金がかかる。市教委としては、多額の予算に対して実際に何人が泳げるようになるのかという費用対効果の視点も生じる。
- ・七生中学校では湧水を使用しており、水が常に新しく、水温も適温に保たれている。熱中症対策として防球ネットに遮光ネットを取り付けて日陰を作る自己努力もしており、100%以上の実施率を達成している。この環境を活かさないのはもったいない。
- ・指導体制の負担としては、水泳指導は複数指導が原則だが指導者の確保が難しく予算も不足しており、体育教員がプール期間中、自分の授業以外もプール管理に追われる負担感がある。
- ・施設が許すなら本来は続けてほしい。大人になってから泳げるようになることもあるため、小中で泳げないことが分かるだけでもプラス。30～40年で施設が壊れたからといって、今後の教育環境を見据えたときにあっさりやめてしまってもいいのかという思いがある。ただ、現状として予算がない中で今できることを考えるしかない。
- ・保護者の方々はプールをなくすことに対して、これからの協議を含めて、色々な現状を考えた上で、今後どのように感じていかれるのか、その動向に非常に注目している。

(委員長) 校長先生方から様々な実態や個人的な体験を語っていただいた。これらを聞いて、保護者の立場としてどう思ったか、忌憚のないお話をいただきたい。

(委員)

- ・周囲の保護者にヒアリングしたところ、男の子の母親はプールを楽しみにしていると答えた一方、女の子の母親は、髪が濡れることのケア、着替え、肌の露出や体型への配慮などから「なくなっても構わない」という意見が多かった。
- ・以前、子供が学校プールだけでは泳げなかったが、夏休みに連続して入ることで急に泳げるようになった。そこからスイミングスクールに通いたいと言い出し、継続して入ることで得られるものがあると実感した。
- ・プール授業を廃止することに不満を持つ保護者へのケアとして、無料クーポンを配布するなどの代替案も良いのではないかと。

(委員)

- ・子供の小学校では民間プールを活用しており、各学年4回ずつ、移動時間も含め2時間（実質1時間程度）の授業を行っている。バス移動が遠足気分を味わえているようで、公共の乗り物に乗る貴重な体験だと思っている。

	・長男は小学校で4時間程度しか水泳授業がなかったが、中学校に入り頻繁にプールに入ることになってから、クロールで25m泳げるようになった。経験を続ける時間の確保は大事だと感じている。 ・娘は今から嫌だと言っている。環境を与えられたところで、子供が選択したくないという選択肢も出てきている。すべての子供たちに等しく「これだけのことができます」と提示された上で選択できるのが理想だが、現在は学校ごとに授業数などの環境がまばらである。これをフラットにするのは難しそうだが、対策を考えていきたい。学校設備は保護者のカンパでどうにかなる問題ではない。 (委員長) 事務局から保護者や児童生徒のアンケート調査についての話があったが、校長先生方からも、子供や保護者がどう考えているかを学校としてもしっかり把握した上で進めたいという意見があった。今後、その調査結果をこの委員会で共有し、検討に活かしていくことになると思う。 (委員) ・20年間のトータルで現状を維持しようとする、数十億円単位の費用がかかる。さらに、現在の猛暑を考えれば屋外でのプール授業は困難であり、屋内施設が必須条件となる。そうなれば、膨大な費用が発生するため、こういった部分も考慮していかなければならない。 ・持続可能な在り方を模索する中で、最善の最適解を導き出していきたい。 (委員) 配布資料にもある学習指導要領の「適切な水泳場の確保が困難な場合には、これらを取り扱わないことができる」という規定がある。日野市の現状が「適切な水泳場の確保が困難な状況」に該当することを客観的に説明した上で、新しい指導方法を考えていくというロジックが良いと感じた。 (事務局) ・教育的効果、保護者の視点、教員の負担、そして財政面など多角的な検討が必要である。本日いただいた貴重な意見を整理し、第2回に向けて資料を作成する。また、最後に委員から意見のあった「適切な水泳場の確保」に関する規定の該当性については、庶務課とも確認し、次回提示したいと考えている。 ・本日言い足りなかったことや追加の意見がある場合は、6月12日までにメールで連絡してほしい。第2回委員会は8月下旬から9月にかけての開催を調整しており、事前に資料を送付する。 以上をもって第1回日野市学校水泳授業等のあり方検討委員会を閉会した。
作成者	教育指導課 小松